

臨調・行革粉碎！ 三里塚ジェット闘争勝利！

参加しよう 私闘記録 千葉労動 5周年結成

4/28

動労千葉は四月二八日、県労働者福祉センターにおいて「結成五周年記念集会・レセプション」を開催します。

動労「本部」革マルとの組織争闘戦をととして、分離独立をかねて以降、五年間の闘いを教訓化すると同時に、いよいよ日本労働運動の主導権をこの手に握りしめる壮大な闘いに打って出る決意を固める場として、組合員の大結集で成功させようではありませんか。

路線の正しさを証明した五年間の闘い

一九七九年三月、動労を牛耳るにいたった革マル反動分子が、動労を変質させ、労農連帯の放棄と革マルへの屈服を強要してきたことに対し、動労千葉はこれをきっぱりと拒否し、血を流した組織争闘戦を展開する中で、一三〇〇の団結を守りきり分離独立を勝ち取りました。

そして二年後、分離独立に際してのスローガン「労農連帯の堅持」を文字通り実践する闘いとして、五日間におよぶ81・3ジェットストライキを貫徹したのです。

「八〇年代に通用する自前の労働運動」をめざし、既成の労働運動のワクを突破する動労千葉の闘いは、同時に密集した反動を呼びおこし、「6・12」「4・15」をはじめ、権力、国鉄当局、動労「本部」革マル一体となった組織破壊攻撃が集中的にかけられてきました。

しかし、動労千葉はこうした反動をことごとく打ち破るとともに、動労千葉のかかげる「三里塚を基軸に中曽根と対決する労働運動」路線は、飛躍的に拡大し、多くの労働者がこの路線のもとに結集してきています。

決意も新たに八〇年代をつき進もう

特に、軍事大国化・改憲にむけた中曽根の臨調

動労「本部」の
4/2 中江公判

裁判ひきのばし策動を粉碎

中江顧問退職金返還請求事件「第十七回公判は、四月二日東京地裁で開かれ、中江顧問に対する反対尋問が行われました。

公判において、中江顧問は、動労「本部」革マルの規約・規則逸脱、組織

的セクト的引きまわしの実態についての確な批判を加え、動労「本部」革マルとその弁護団が「裁判ひきのばし」のためにのみくどくどしくけちつけのにもち出してきた「査問委の設置」「徐名処分」問題について完全に論破し、

彼らの意図をもの見事に粉碎しました。

論争に敗れた革マル弁護団・渡辺千古は、なんと

中江顧問の組合費納入手続きとか、動労千葉結成の過程における中江顧問のかかり等、本件公判から逸脱した内容の尋問を行い、動労千葉弁護団の

「行革攻撃の中で、労働運動指導部、とりわけ、動労「本部」革マルがこれに完全に屈服し「働こう運動」をもって当局の尖兵になりさがった今日、動労千葉の路線、分離独立の正しさははつきりと証明されています。

みよ、3・25五割動員実現の快挙を。

敵の死括をかけた攻撃の中で、労働者が生き残ることのできる道が、動労千葉の路線以外にありえぬことはや明白です。

動労千葉結成五周年を機して、全組合員が決意も新たに八〇年代を勇躍つき進もうではありませんか。

名称	動労千葉「結成五周年記念集会・レセプション」
日時	一九八四年 四月二八日（土） 十二時三十分
場所	県労働者福祉センター・大ホール
プログラム	第一部 記念集会 ・主催者あいさつ 中野 洋 ・執行委員長 中野 洋 ・基調報告 書記 長 布施 宇一 ・各界連帯のあいさつ 第二部 レセプション ・アトラクション・その他

異議申し立てによつてすごすご引き下がるをえなかつたのです。

次回で結審を迎える中江公判

このように、追いつめられ行つづまって四人もの弁護士が入れかわりたちかわつてくどくどと規約解釈の細部を質問したり、佐藤査問委員長証人喚問を新たに要求するなどの苦しまぎれの「裁判ひきのばし策動」をことごとく打ち破つて、中江公判は次回をもって勝利的に結審となる予定です。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！